

# 虐待から福祉

いつまでたっても「虐待」が無くなりません。福祉サービスをご利用の人々、支援現場で日々努力している多くのスタッフ、これから福祉の道に進もうとしている若い人たち。様々な人たちが心を痛めています。

今回の研修会は、第1部で、山口下関市で起きた虐待事件について、日本知的障害者福祉協会からの報告と、今後の対応をお聞きし、第2部では、去年の「アンガーマネジメント」研修に引き続き、(社福)みずき福祉会理事長の阿部美樹雄氏に「フロー理論」の研修をお願いいたしました。虐待のない福祉現場を目指し、みんなで勉強いたしましょう。

## プログラム

### 1. 『山口県下関市及び西東京市の入所施設における虐待等についての説明と報告』

報告者 東京都発達障害支援協会理事長  
(社福) 青梅学園 統括施設長 山下 望

### 2. 『フロー理論を学びましょう』

講師 東京都発達障害支援協会理事  
(社福) みずき福祉会 理事長 阿部 美樹雄

○日時：7月28日(火) 13:30～16:30

(受付開始13時から)

○会場：国分寺労政会館 TEL 042-323-8515

(※会場アクセスをご参照ください)

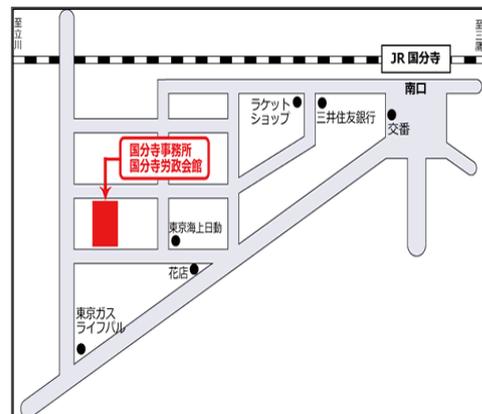
○参加費：会員施設 1,000円 その他 1,500円

○お問合せ先 支援協会事務局

〒185-0021 国分寺市南町 2-11-14 トミービル 3F

TEL 042-300-1366/FAX 042-300-1367

### 「会場アクセス」



虐待はなぜ問題なのか？

体罰とは、教育用語で40年前までは罰として、お尻をたたいたり、座らせたり廊下で立たせたりしていた。その延長上で“体で教える”などのことは、部活の指導として容認されている雰囲気はまだあるのではないのでしょうか？少なくとも、私の高校時代の部活では、うさぎ跳びは普通にやっていたし、水を飲むことは厳禁だった。

精神論は否定するものではない。むしろみんなで共有できる品格のあるものであるのなら大切なことです。福祉という仕事は、もっともビジョナリーな仕事であるからです

たたく、蹴る、わいせつな行為、ネグレクト、罵声や傷つくことを言うことや、本人の所得保障である年金の搾取などは、虐待というより犯罪行為です。犯罪行為だからしてはいけないとは、当たり前のことです。

さらに、私たちの仕事と照らし合わせて考えるとしたらどのようなことなのか？

障害を持たれている方々は、私たちと比べて何倍もの迫害体験を受けてきているといわれています。「生きにくさ」があるとしたら、彼らの問題ではなくこの社会が生み出してきたものなのです。

私たちの仕事は、幸福感を感じられる豊かな暮らしに向かうための支援です。社会の中の様々な軋轢や差別から盾になるという役割があるにもかかわらず自らがその要因になってはいけません。

不完全な人間という存在が、他者とかわりを通して相手が幸福を感じて頂く、それは自らを磨き、磨き、磨き続け、相手が輝いたときに自分がようやく輝くという法則の連続なのです。人は他者を通してでなければ自分を判断できないのです。

相手が辛く苦しそうなのは、自らの優しさを最大限に発揮する出番なのです。相手がうれしそうに微笑んでいるならば最大化して喜びを倍増するチャンスなのです。すべての悩みは人間関係に帰結し、喜びも人間関係の中にあります。

そのためになすべきことの最初は、愛着関係や信頼関係という安全な関係を信じてもらうことから始まります。そして、このことが目的でもあるのです。なので、虐待は相手を不幸にし、それを行っている人も幸せではないのです。スキルは勉強しなければなりません。もっと大事なものはスキルを行う“あなた”のあり方が問われます。

私は、このことの学びのためにフロー理論やアングーマネジメント、そしてメンタリングマネジメントなどポジティブ心理学を紹介させて頂いています。そして人前で話せるように高めるようにしています。伝えなければならない、とは思いますが、もっとも恩恵を受けているのは私自身だからです。

もう気が着かれていますと思いますが、

どんな過去があれ、今がしあわせならば、過去は解釈にしか過ぎません。

未来をしあわせなものにするかは、自らの意思なのです。

未来は意思です。

その未来から“今なすべきことを考える”それが“福祉人”の生き方です。

阿部美樹雄